University of Teacher Education Fukuoka

福岡県医師会学校保健・学校医大会

# チーム学校による
# 不登校児童生徒の移行支援

福岡教育大学教育学研究科教職実践専攻
スクールリーダーシップ開発コース
（学校適応支援リーダープログラム担当）
西山 久子

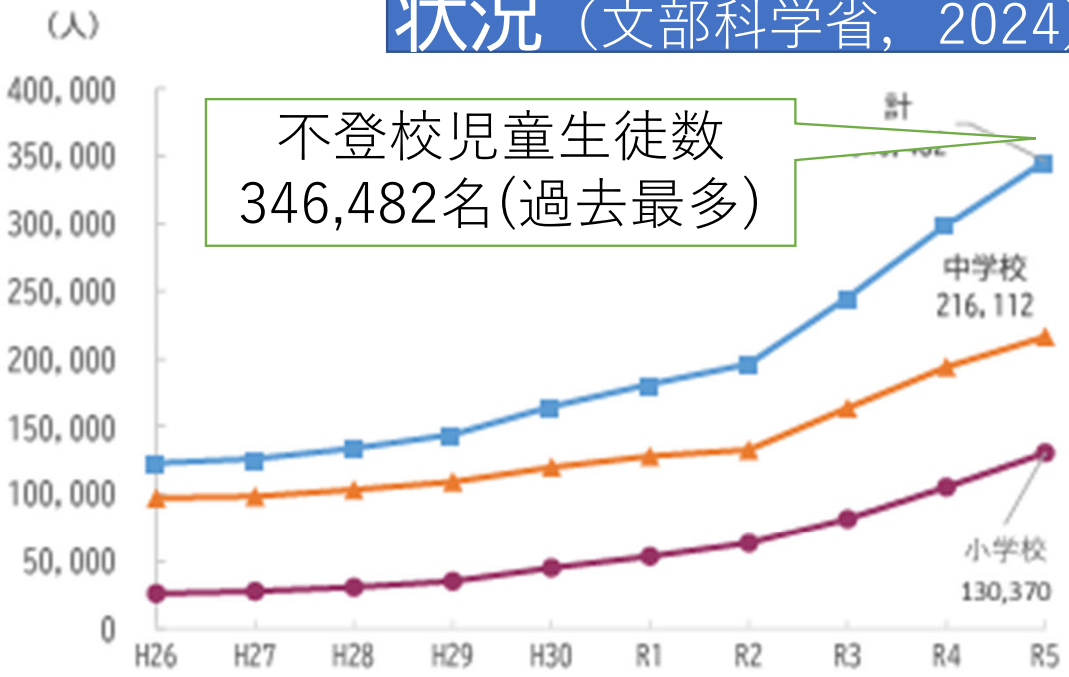
# 本日のながれ

はじめに

1. 不登校児童生徒のより良い学びに向けた施策
2. 「チーム学校」の多層支援モデル
3. 改訂版生徒指導提要
4. 移行期を契機とした支援
5. すべてに届く心理教育

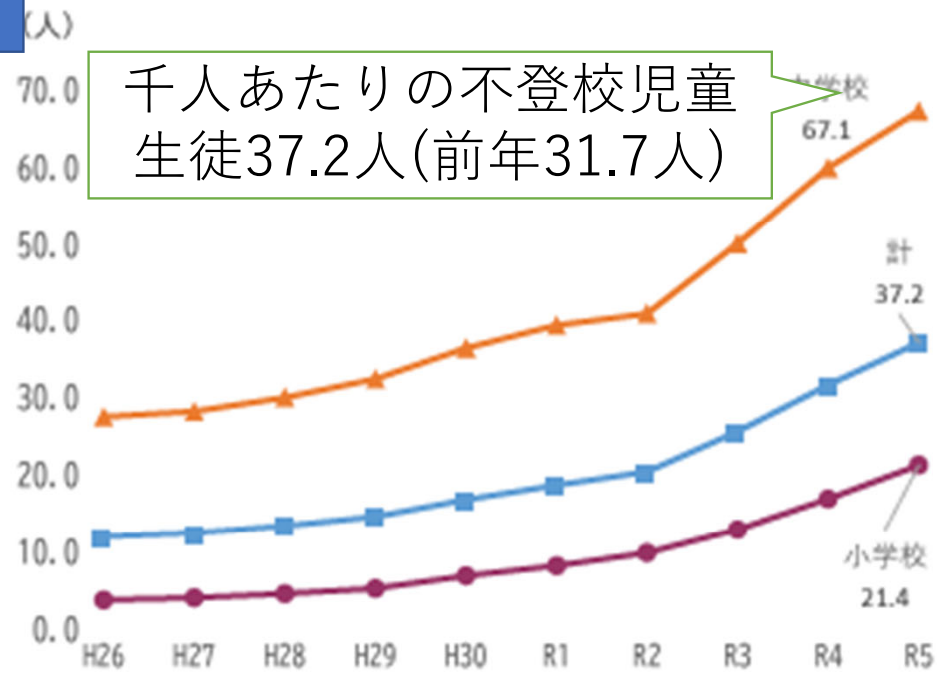
# 小中学校の不登校の状況（文部科学省，2024）

## 不登校児童生徒数の推移




不登校児童生徒数
346,482名(過去最多)

## 不登校児童生徒数の推移（1,000人当たり不登校児童生徒数）




千人あたりの不登校児童生徒37.2人(前年31.7人)

## 不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

| | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小学校 | 25,864 | 27,583 | 30,448 | 35,032 | 44,841 | 53,350 | 63,350 | 81,498 | 105,112 | 130,370 |
| | 3.9 | 4.2 | 4.7 | 5.4 | 7.0 | 8.3 | 10.0 | 13.0 | 17.0 | 21.4 |
| 中学校 | 97,033 | 98,408 | 103,235 | 108,999 | 119,687 | 127,922 | 132,777 | 163,442 | 193,936 | 216,112 |
| | 27.6 | 28.3 | 30.1 | 32.5 | 36.5 | 39.4 | 40.9 | 50.0 | 59.8 | 67.1 |
| 計 | 122,897 | 125,991 | 133,683 | 144,031 | 164,528 | 181,272 | 196,127 | 244,940 | 299,048 | 346,482 |
| | 12.1 | 12.6 | 13.5 | 14.7 | 16.9 | 18.8 | 20.5 | 25.7 | 31.7 | 37.2 |

90日以上不登校ながら支援に繋がらない子どもがいないようにと示されたCOCOLOプラン

1. 学びたい時に学べる支援

2. チーム学校による本人と保護者の早期支援

3. 安心安全な学校づくり

## 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」（概要）

※Comfortable, Customized and Optimized Locations of learning

○ 小・中・高の不登校が約30万人に急増。90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けられていない小・中学生が4.6万人に。

⇒不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、

**1．不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える**
**2．心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する**
**3．学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする**

ことにより、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現するためのプランを、文部科学大臣の下、とりまとめ。

○ 今後、こども政策の司令塔であるこども家庭庁等とも連携しつつ、今すぐできる取組から、直ちに実行。また、文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」を、こども家庭庁の参画も得ながら、文部科学省に設置。進捗状況を管理しつつ取組を不断に改善。

### 主な取組

**1．不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える**

仮に不登校になったとしても、小・中・高等を通じて、学びたいと思った時に多様な学びにつながることができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備。

○**不登校特例校の設置促進**（早期に全ての都道府県・指定都市に、将来的には分教室型も含め全国300校設置を目指し、設置事例や支援内容等を全国に提示。「不登校特例校」の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に立ったものへ改称）。

○**校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置促進**（落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置）

○**教育支援センターの機能強化**（業務委託等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化。オンラインによる広域支援。メタバースの活用について、実践事例を踏まえ研究）

○**高等学校等における柔軟で質の高い学びの保障**（不登校の生徒も学びを続けて卒業することができるような学び方を可能に）

○**多様な学びの場、居場所の確保**（こども家庭庁とも連携。学校・教育委員会等とNPO・フリースクールの連携強化。夜間中学や、公民館・図書館等も活用。自宅等での学習を成績に反映）

**2．心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する**

不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため１人１台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにするとともに、不登校の保護者も支援。

○**１人１台端末を活用し、心や体調の変化の早期発見を推進**（健康観察にICT活用）
○**「チーム学校」による早期支援**(教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等が専門性を発揮して連携。こども家庭庁とも連携しつつ、福祉部局と教育委員会の連携を強化)
○**一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援**（相談窓口整備。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援）

**3．学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする**

学校の風土と欠席日数には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。

○**学校の風土を「見える化」**(風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ提示)
○**学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善**（子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現）
○**いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応の徹底**
○**児童生徒が主体的に参画した校則等の見直しの推進**
○**快適で温かみのある学校環境整備**
○**学校を、障害や国籍言語等の違いに関わらず、共生社会を学ぶ場に**

### 実効性を高める取組

○**エビデンスに基づきケースに応じた対応を可能にするための調査の実施**（一人一人の児童生徒が不登校となった要因や、学びの状況等を分析・把握）
○**学校における働き方改革の推進**　○**文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置**

❶
不登校児童生徒の学びの場の保証

❷
小さなSOSを見逃さない心の健康観察

❸
授業改善と環境整備で安心な学校

# 不登校対策COCOLOプラン関連事業

令和6年度予算額　89億円
(前年度予算額　86億円)
※内数を除く

文部科学省

令和5年度補正予算額　51億円

- **不登校児童生徒は10年連続増加**（令和4年度の小・中・高等学校の不登校児童生徒数：**約36万人**）しており、憂慮すべき状況。
- **90日以上の不登校**であるにもかかわらず、**学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が5.9万人**存在。
- 令和5年3月、**文部科学大臣の下、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を発表。**
- 令和5年10月、総理大臣から不登校等の緊急対策を経済対策にも盛り込むよう指示があり「**不登校・いじめ緊急対策パッケージ**」をとりまとめ、**COCOLOプランの取組を前倒しで実施**

## 1 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。

**学びの多様化学校（※）の設置促進 2億円（1億円）**　※令和5年8月に名称変更
- 学びの多様化学校の設置準備（補助上限約500万円）
- 令和6年度に指定される学びの多様化学校の設置後の運営支援(補助上限額約400万円)【新規】
- SC・SSWの配置充実（自治体の配置の工夫により、最大週40時間の配置も可能）
- 不登校児童生徒個々の実情に対応するために必要な支援に係る教職員配置（義務教育費国庫負担金）
  （学びの多様化学校に対する教職員の優先配置等）
- 学びの多様化学校の教育活動の充実に関する調査研究
- 廃校や余裕教室等の既存施設を改修して活用する場合の支援メニューの創設（令和９年度まで）【新規】683億円の内数

**校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）の設置促進 29億円**
- 校内教育支援センター（SSR）の設置促進【新規】(★)
- 学習指導員等の配置充実【拡充】 121億円の内数（91億円の内数）

**教育支援センターのオンライン体制・アウトリーチ機能の強化 5億円**
- 教育支援センターのICT環境の整備【新規】(★)
- 教育支援センターの総合的拠点機能形成に係る調査研究【新規】(★)

**多様な学びの場、居場所を確保等**
- 関係機関との連携を支援するコーディネーター等の配置
- 不登校児童生徒支援協議会等の設置及び教職員研修会等の実施
- 夜間中学の設置準備・運営支援及び教育活動の充実
- 高等学校における教育の質確保・多様性への対応に関する調査研究 0.7億円の内数(0.8億円の内数)
- 各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業【新規】1.2億円の内数
- 不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進【新規】1億円(★)

## 2 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。

**１人１台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進 １０億円**
- １人１台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進 （全都道府県・指定都市等）【新規】(★)

**「チーム学校」による早期支援を推進 84億円（82億円）＋7億円**
- SC・SSWの配置及び重点配置校数の拡充
- SC・SSWによる緊急相談支援(★)

**一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援**
- SC・SSWの配置（再掲）、保護者学習会等の実施を支援

## 3 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。

**学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善（子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現）**
- 校内教育支援センターの設置促進（★）及び学習指導員等の配置充実（再掲）

**快適で温かみのある学校としての環境整備**
- 公立小・中学校等の施設整備を行う自治体に対し、その一部を支援　683億円の内数（687億円の内数）(★)

(★)については令和5年度補正予算において措置

(担当：初等中等教育局児童生徒課)

**専門職活用による教育相談の充実**

①学びの多様化学校設置

②SC/SSW増員

③SNS等の活用

④不登校児童生徒の学びの継続

**いじめ対策・不登校支援調査研究**

①いじめ・不登校等の未然防止

②SC/SSW常勤化

③不登校早期発見・早期支援事業

# 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校・いじめ対策等の推進

令和6年度予算額　88億円
（前年度予算額　85億円）
令和5年度補正予算額　51億円

文部科学省

## 背景・課題

○ 不登校児童生徒数が小・中学校で約30万人、そのうち学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けていない小・中学生が約11万4千人と、いずれも過去最多となり、また、いじめ重大事態の発生件数も923件と過去最多となる中、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化が必要である。

## 目標

○「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」（令和5年3月）や「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」（令和5年10月）等に基づき、こども家庭庁等の関係機関とも連携を図りながら、誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校・いじめ対策等を推進する。

## 文部科学省　＜令和6年度予算額の概要＞ 主に教育委員会を通じた対応

### 専門家を活用した教育相談体制の整備・関係機関との連携強化等

8,680百万円（8,461百万円）［令和5年度補正予算額　3,728百万円］

**①不登校児童生徒の学びの場の確保の推進**

・学びの多様化学校の設置準備に加え、新たに設置後の運営支援
（設置準備：20校、設置後：7校）

・教育支援センターにおける多様な相談・支援体制の強化等

**②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置充実**

・SCの配置　（全公立小中学校 27,500校、週４時間）
SSWの配置　（全中学校区 10,000校、週３時間）

・重点配置校数の拡充　（SC　：7,200→10,000校、週8時間）
（SSW：9,000→10,000校、週6時間）

・オンラインを活用した広域的な支援体制整備（全都道府県・政令指定都市）

**③SNS等を活用した教育相談体制の整備推進**

**④不登校児童生徒等の学び継続事業**【令和5年度補正予算額　3,728百万円】

・校内教育支援センター（SSR）の設置促進　（6,000校）

・在籍校とつないだり、自宅にいる児童生徒・保護者へ学習・相談支援を行うための教育支援センターのICT環境の整備　（600ヶ所）

・より課題を抱える学校における組織的な支援のためのSC・SSWの配置充実　（3,900校）

### いじめ対策・不登校支援等に関する調査研究【委託】

47百万円（50百万円）［令和5年度補正予算額　1,404百万円］

**①いじめ・不登校等の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに関する調査研究**

・自殺予防教育の指導モデル開発

・心理・福祉に関する教職員向けの研修プログラムの開発

・経済的に困窮した家庭の不登校児童生徒に対する経済的支援の在り方に関する調査研究　等

**②スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの常勤化に向けた調査研究**

**③不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業**

【令和5年度補正予算額　1,404百万円】

・１人１台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入推進

・保護者への相談支援やアウトリーチ等の地域の総合的拠点機能形成

・不登校・いじめ対策等の効果的な活用の推進

- いじめ防止対策に関する関係府省連絡会議
- いじめ重大事態の情報共有
- 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部

### こども家庭庁 主に首長部局を通じた対応

・学校外からのいじめ解消アプローチ

・いじめ調査アドバイザー

・こどもの多様な居場所づくり　等

【関連施策】

▶公立学校施設の整備（廃校や余裕教室等の既存施設を改修して活用する場合の支援メニューの創設（令和９年度まで）等）、私立学校施設・設備の整備の推進

▶不登校児童生徒個々の実情に対応するために必要な支援に係る教職員配置（義務教育費国庫負担金）（学びの多様化学校に対する教職員の優先配置等）

▶学習指導員等の配置

▶スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置
（私立）私立高等学校等経常費助成費補助金（特別補助）

▶養護教諭等の業務支援体制の充実（学校保健推進体制支援事業）

▶夜間中学の設置促進・充実

▶高等学校における教育の質確保・多様性への対応に関する調査研究

▶各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業

（担当：初等中等教育局児童生徒課）

文部科学省の施策とこども家庭庁・厚生労働省との協働

# 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）の全体像

## ～学びへのアクセス100％に向けたイメージ～

**【学びの支援の視点】**（※不登校児童生徒への支援の在り方について（元文科初第698号令和元年10月25日文部科学省初等中等教育局長通知）

- **不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。**
- **不登校の時期が休養や自分を見つめ直す等の積極的な意味を持つことがある**一方で、**学業の遅れや進路選択上の不利益や社会的自立へのリスクが存在すること**に留意すること。

**※学校教育の意義・役割**

・特に義務教育段階の学校は、各個人の有する能力を伸ばしつつ、社会において自立的に生きる基礎を養うこと等を目的としており、その役割は極めて大きいことから、学校教育の一層の充実を図るための取組が重要であること。

・既存の学校教育になじめない児童生徒については、学校としてどのように受け入れていくかを検討し、なじめない要因の解消に努める必要があること。

在籍校と連携し、こどもの状況に応じて学びを100%保障

教育長　学びの支援のコーディネート機能　校長

＜在籍校以外の＞学びの場の多層的ネットワーク

在籍校での学びの保障
＜在籍校における、予防～早期発見・早期支援の抜本強化＞

学びの充実

学校内での学びの支援

全国化（当面300校目標）
学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）

スペシャルサポートルームとして推進
校内教育支援センター

一人一台端末活用
教室での予防的学びの支援

学校外での学びの支援

広域対応の強化
教育支援センター

フリースクール等の民間施設

デジタル活用での学びの支援

オンラインによる学びの支援（国・地方・民間連携）

育ち支援

育ち支援との連携
＜こども家庭庁との連携によるアウトリーチ強化＞

学びの支援のアウトリーチ

こどものデータ連携※1
こども家庭センター※2

全てのこどもの居場所づくり

教育部局と福祉部局等の連携強化を促進

※1 こどもデータ連携に向けた実証事業を展開中
※2 R6.4の開始に向けて準備中

居場所づくり指針の下、不登校のこどもも含む多様な居場所づくりを推進

# 文部科学省・子ども家庭庁の令和7年度概算要求等における主な取組(文部科学省，2024)

## 不登校対策COCOLOプラン関連事業　111億円

①不登校の児童生徒全ての学びの場等を確保し、学びたいと思った時に学べる環境の整備

②心の小さなSOSを見逃さない「チーム学校」支援

③学校風土の「見える化」による安心して学べる場づくり

## いじめ防止に向けた総合的な対策 133億円

①未然防止・早期発見

②早期対応・組織的対応

③いじめ重大事態への対応

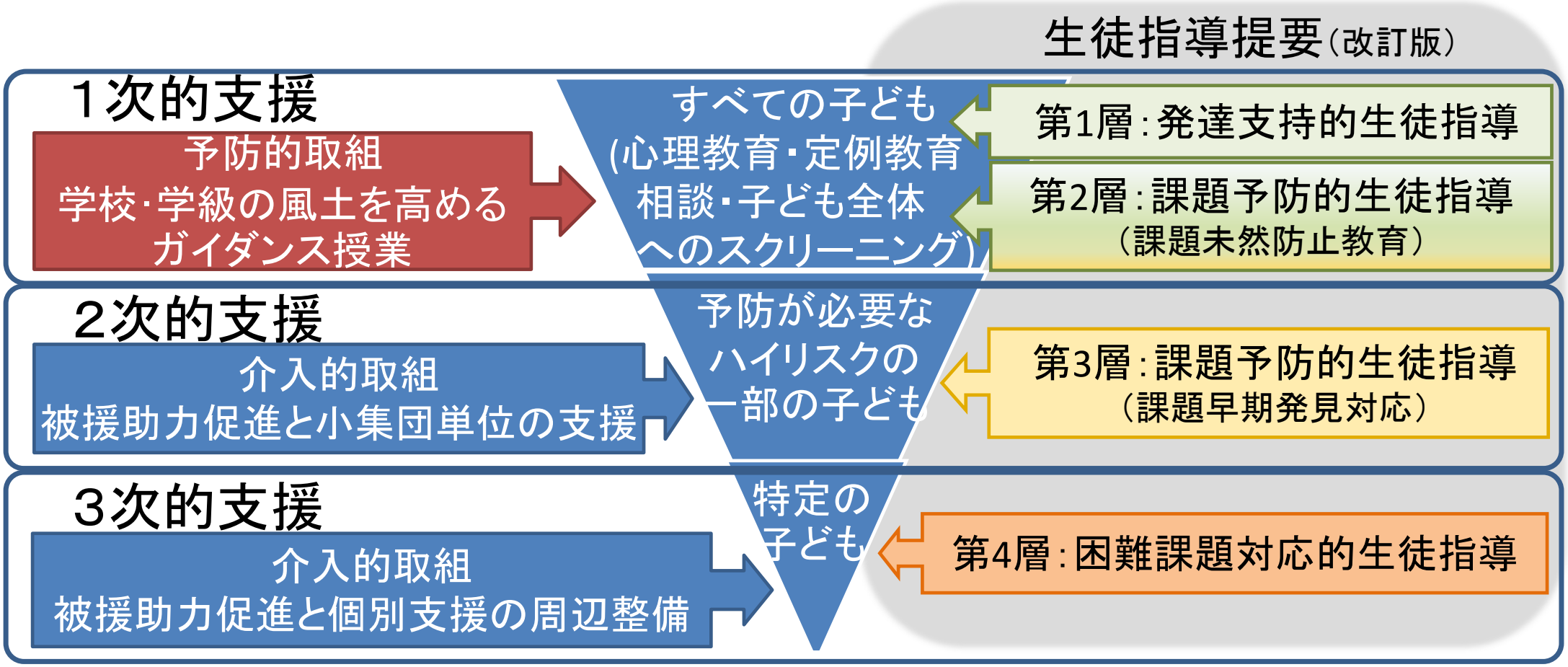
## 児童生徒の自殺対策　88億円

①自殺予防に資する教育や普及啓発

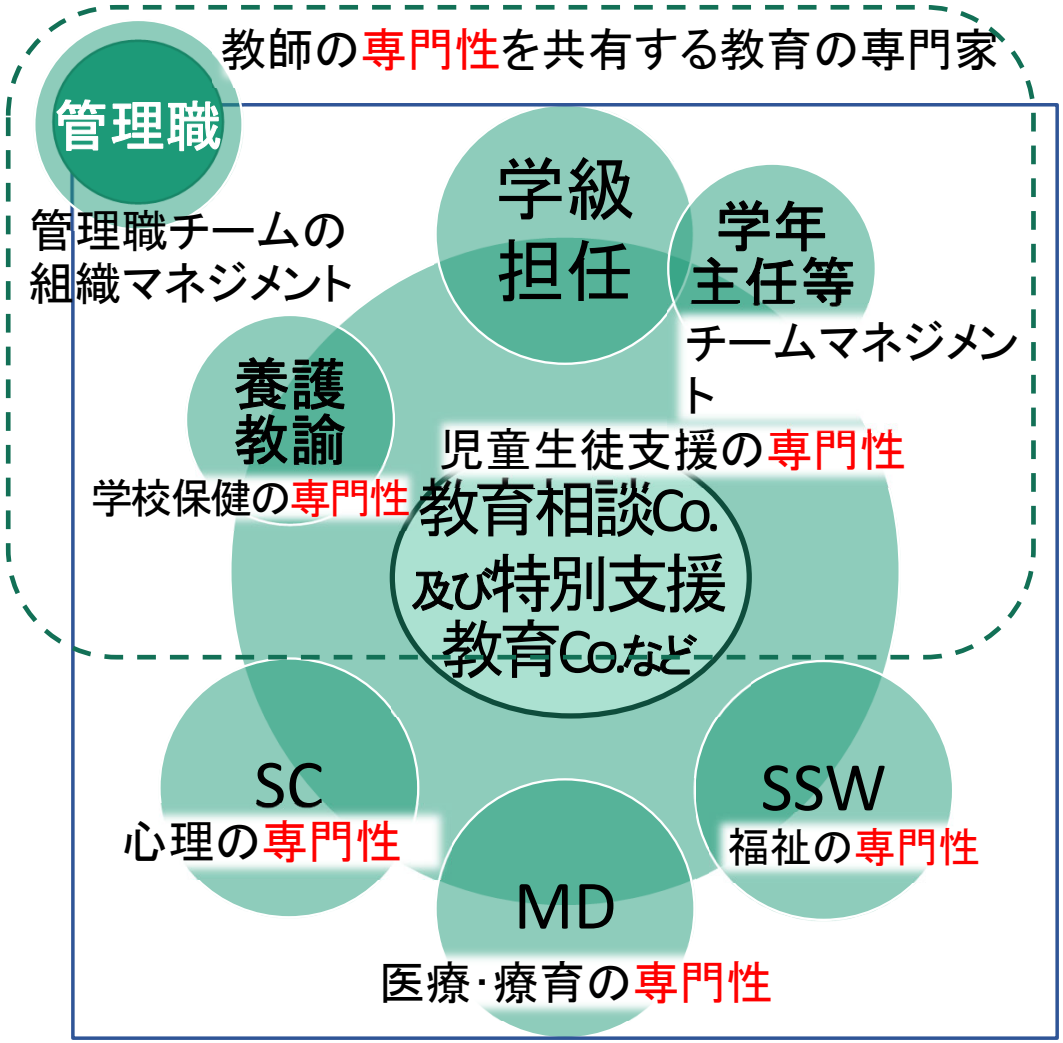
②自殺リスクの早期発見・早期対応

③事後対応

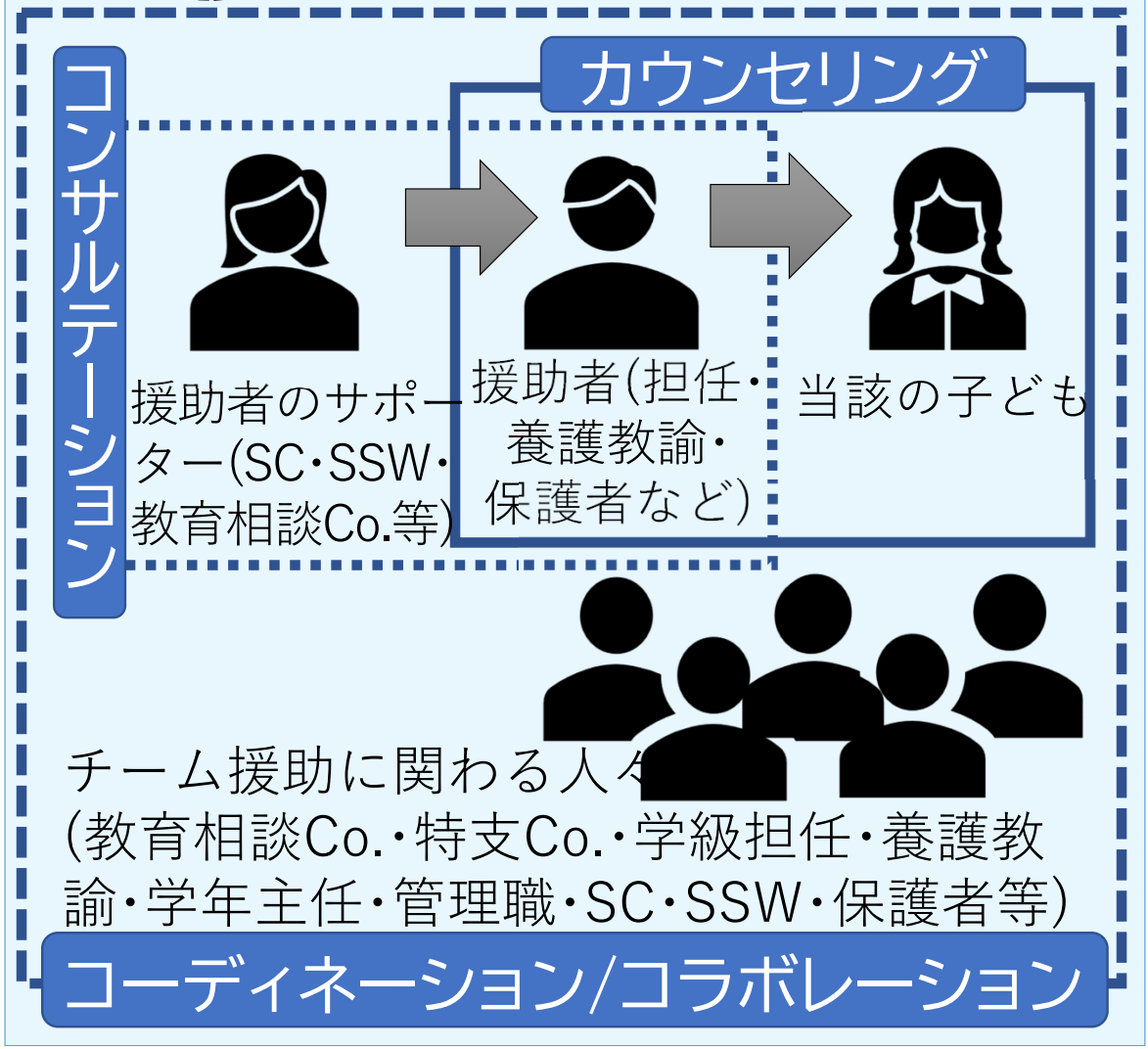
# 児童生徒を多面的視点で捉えるために：
# 「生徒指導提要」を「多層支援モデル（MTSS）」に基づく整理



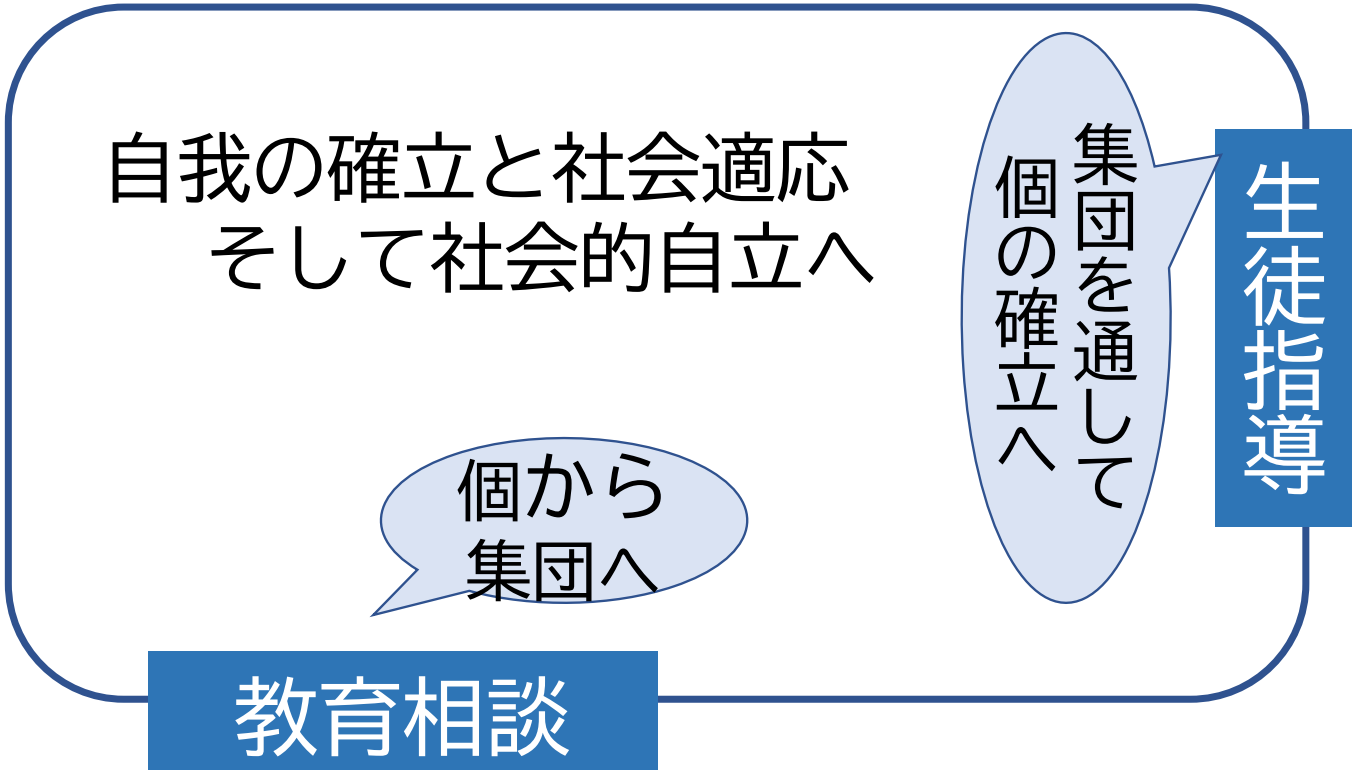
# チーム学校



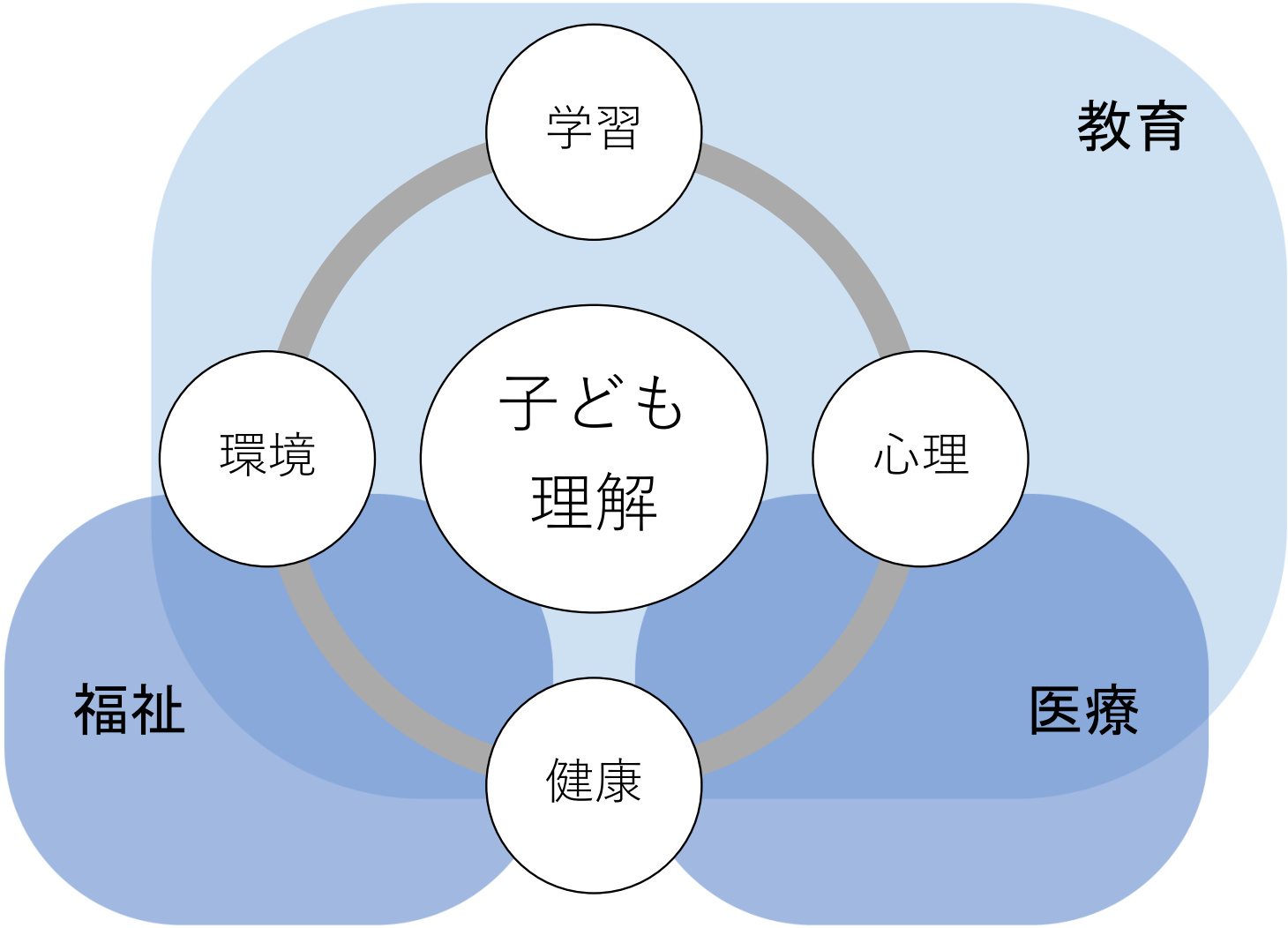

# スクールカウンセリングの各種サービス



生徒指導と教育相談の関係図



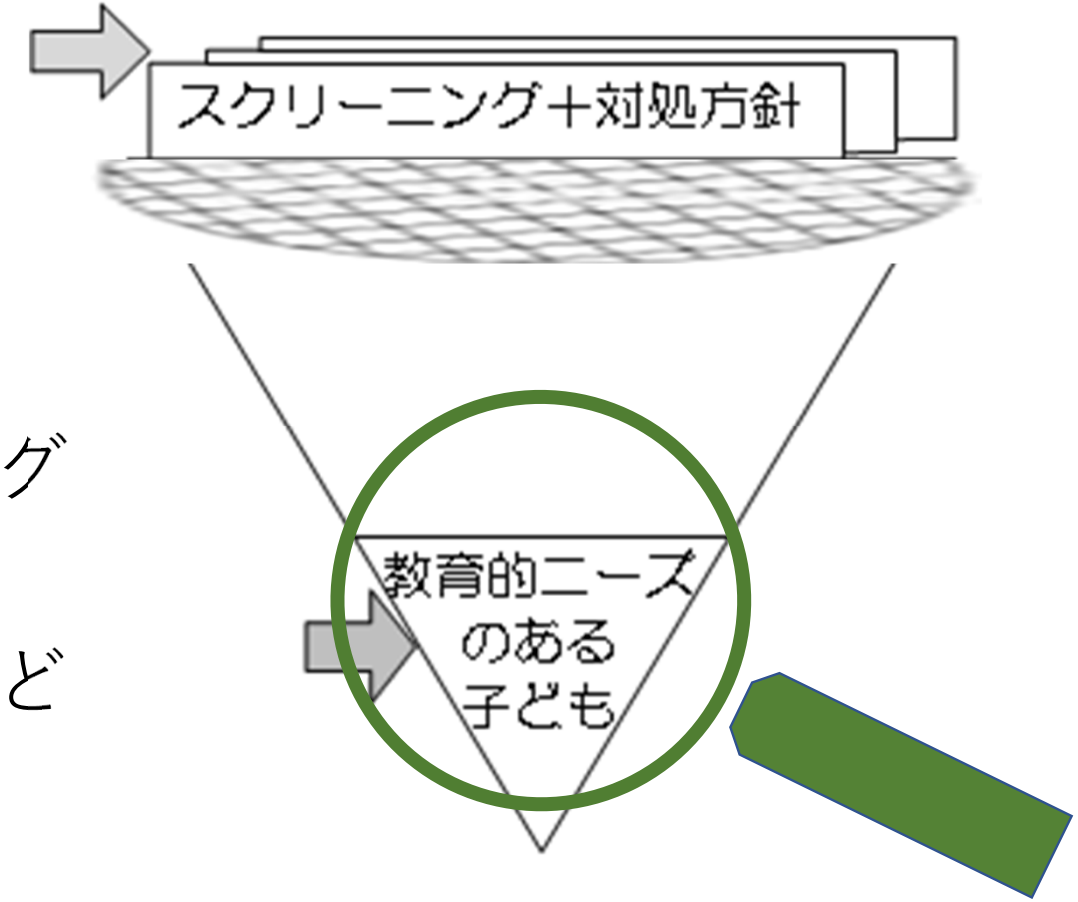
# 子どもの多様なニーズを踏まえた支援



# 子ども理解の多様な枠組

# 各段階で「スクリーニング」としてできること

- 学校適応の全般的なスクリーニング
- 気になる子どもの課題を確認する発達スクリーニング
- 課題があることが顕著な子どもへの詳細なアセスメント



# 個別の支援：実態把握から支援までの流れ

**冒頭アセスメント**

- 先生方から情報収集　　福岡県ｻﾎﾟｰﾄﾋﾝﾄｼｰﾄ
- 初期スクリーニング（S-M社会生活能力検査・例外探し・環境確認・発現頻度/時系列の確認）
- 統合して課題整理（実感を裏付け、精緻に把握）

**教育援助**

- 問題の確認
- 試行的支援⇒更なる見取り
- 統合して課題整理

**教育援助の評価**

- 効果の出たこと
- 効果が不十分なところ⇒修正
- 次のステップに向けた検討

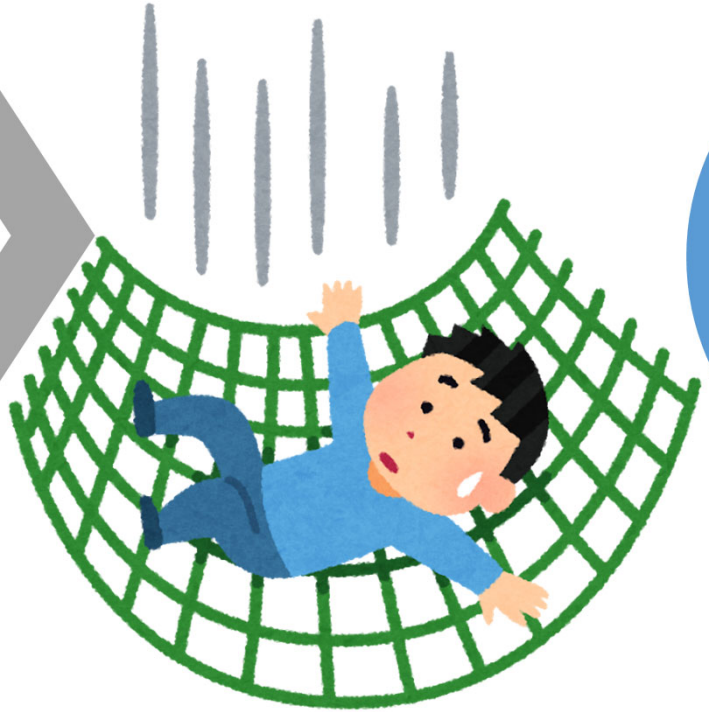
# 全ての子どもに保証したい姿

**定形発達**

様々な

成長プロセス

非定形発達



健全な
社会的
自立

# 全ての子どもに届く
# 学校適応援助

- 課題・強みを包括的に把握
- 学級担任間で支援方略を共有

- 学級・学年間で対応方針を共有
- 困難の内容でなく深刻さに対応

# 丁寧な校内連携の必要性

エピソード❶：別室登校の生徒の教室復帰を目指し、学級担任と養護教諭・SCで丁寧に関係作りを行い、支援をしていた。一部教室に戻りつつあった段階で、学年主任が教科担任を務める社会科の授業で、宿題未提出の生徒が多かったことを全体に指導し、その生徒は、それが心理的負担となり、別室はおろか、学校に登校できなくなってしまった。

エピソード❷：不登校傾向の生徒に保健室登校を足掛かりにして別室登校が安定するように計画していたが、保護者が1時間目が始まった後に車で学校に送り、本人が下足箱を通り抜けた時点で、遅刻指導をした直後の生徒指導部の教員と出会い、指導を受けてしまった。その生徒はすぐ保護者に迎えに来るよう連絡し、帰宅して以降、欠席が続く。

# 多職種協働による児童生徒支援のネットワーク

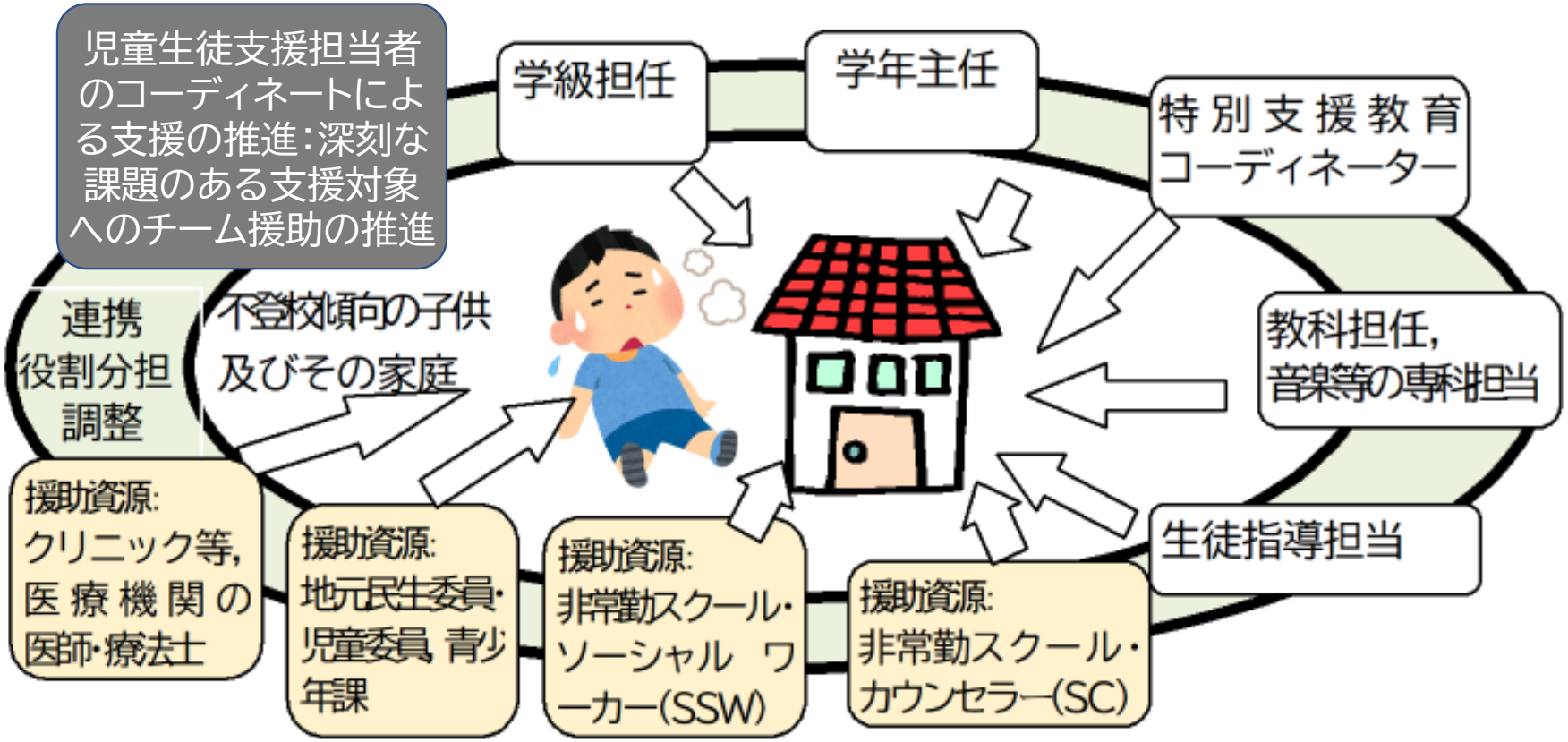
**アセスメント**
観察・集約・見立て

**計画策定**
方針提案・役割分担

**直接・間接介入**
コンサルテーション

**モニタリング**
観察・集約・再修正

**評価**
全体評価




**各領域の専門性をふまえた視点を統合した検討・協議**

（西山，2012を修正）

# 学校における教育相談の充実に向けた体制づくり

児童生徒支援担当者に期待される組織的支援の役割：

校内の個別支援ニーズの集約・検討と課題の深刻さによる整理

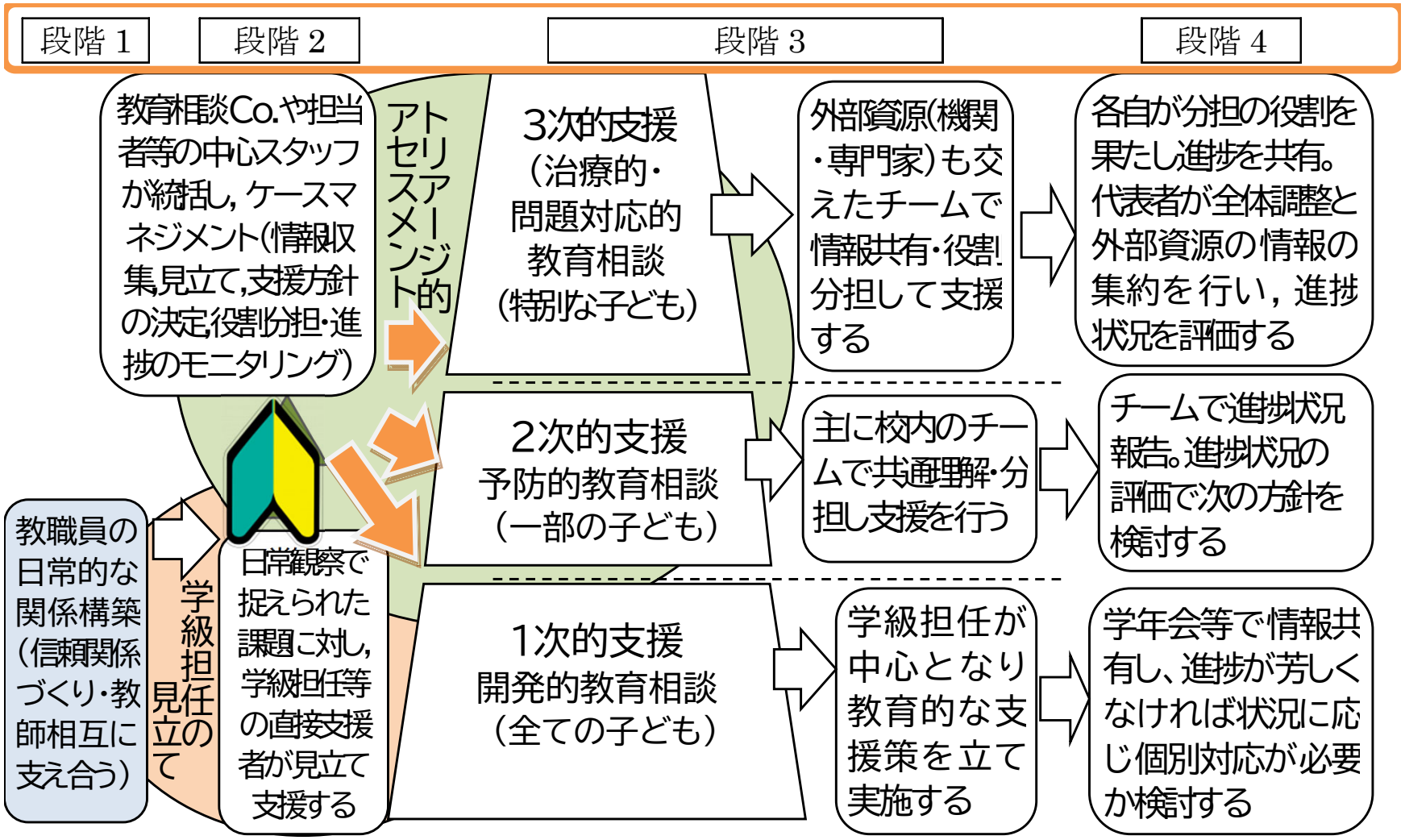



図　教育相談活動階層的援助システム（西山,2023 を修正）

# 校内の児童生徒支援のシステム作り

「チーム学校」
時代に向けた

子どもの学校生活の充実に
向けた支援の　　牽引者

(教育相談コーディネーター
生徒指導主事・管理職および
校区等に配属のSC・スクール
ソーシャルワーカー等)

(記入用シート,
会議用アジェンダ,
チェックリスト等)

(不登校等の個別指導に
関する教務内規,
生徒指導ガイドライン等)

- 養護教諭
- 教育相談担当者
- 生徒指導担当
- 特別支援教育コーディネーター
- 管理職
- SC
- SSW
- その他の援助資源

# トランジション（移行）

次の学年・学校に送り出した児童生徒が，過度に無理のないペースで新たな学びの場に適応していくことができるには？

【小学校・中学校・中等教育学校・高校・特別支援学校】

以前の教育段階では・・・

- どんなことが課題となっていましたか？
- 所属機関にいる時の子どもの状態はどうでしたか？
- 在学中にその子どもの問題を理解していましたか？
- 保護者はどの程度子どもを理解していますか？（1人･集団）

# 全ての児童生徒に保証したい支援により、成長を促進させつつ移行に備えるには

## 支援者

- 個に応じて各発達段階に必要な力をつける
- 課題がありそうなことを予見する
- 環境面の資源をふまえる（家庭に加え、SC・SSW・医療等, 他領域の資源も）

## 当事者・保護者

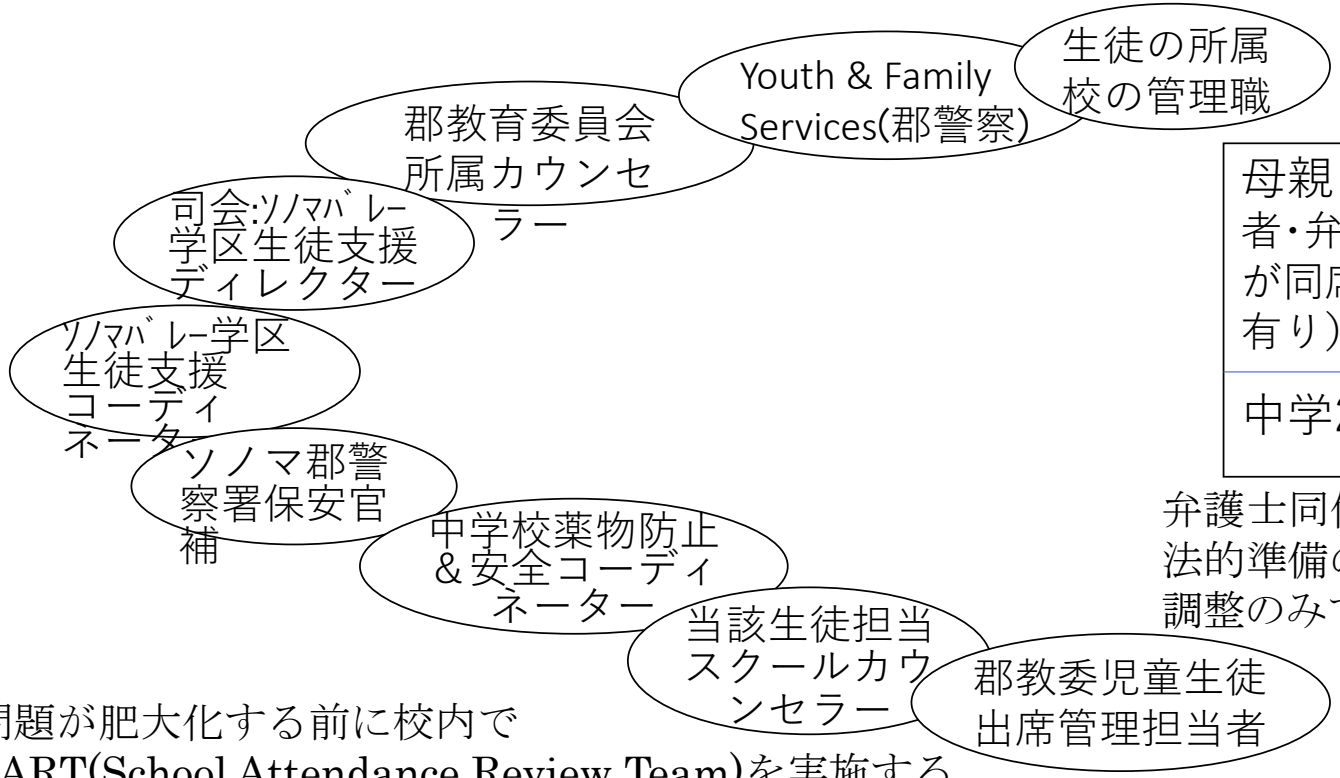
- シミュレーション
- 相談できる窓口は
- 困りごとに関する見通しは
- トラブル対応のパターンは

# アメリカの不登校対策の例

**ソノマバレー学区における模擬SARBミーティングの様子（所要時間約1時間）**

モデル：中学2年生で出席状況および成績が急降下した生徒，保護者

経　緯：①3日の欠席の後，4回目に事情を説明する手紙発送
②5回目の欠席で，より厳しい内容の手紙発送
③6回目の欠席で，学区SARB(School Attendance Review Board)実施




| |
|---|
| 母親（家庭の支援者・弁護士・通訳等が同席することも有り） |
| 中学2年生（A） |

弁護士同伴で出席の場合，法的準備のため再開の日程調整のみで解散することも有

問題が肥大化する前に校内でSART(School Attendance Review Team)を実施する

# 様々な教育支援センター(適応指導教室)

教育支援センターの類型

| | |
|---|---|
| 治療モデル | 個人面接重視 |
| 成長モデル | 体験活動重視 |
| 教育モデル | 学習活動重視 |
| 家族モデル | 家族的雰囲気重視 |

- 体験活動型
- 学力補充型
- 混合型

現在の教育支援センターにおけるトレンドは…

## 教育支援センターの構成員

- 適応指導教室 指導員
- 心理職:カウンセラー
- 年齢・職種等・多様な人材の協力
  例:クラフト(絵手紙・書道等)の先生
  作業学習(野菜作り・飼育等)の先生
- 教育支援センター室長(退職校長等)
- 教育職:教育相談等の経験を積んだ現職教員
  教員免許を持つスタッフの配置

# 教育支援センターでの活動

- 子ども支援：居場所づくり
  学習支援
- 保護者支援：親の会等
- 教職員連携：担任連絡会

**体験活動↓↓　　日常的活動⇒**

| 時刻 | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 |
|---|---|---|---|---|---|
| 7:00 | | 起床<br>朝食 | 起床<br>朝食 | 起床<br>朝食 | 起床<br>朝食 |
| 9:30 | | 料理を作ろう | 自分で選ぼう（製作・文化） | 遠くへ出かけよう | お別れ会 |
| 12:00 | | 昼食 | 昼食 | 昼食 | 昼食 |
| 13:30 | 出会いの集い<br>お互いを知ろう | 地域と交流しよう | 自分で選ぼう（スポーツ） | | |
| 17:45 | 夕食 | 夕食 | 夕食 | 夕食 | |
| | やまびこタイム（入浴） | やまびこタイム（入浴） | やまびこタイム（入浴） | やまびこタイム（入浴） | |
| 22:00 | 就寝 | 就寝 | 就寝 | 就寝 | |

○時間割がある（篠山市）

| 日課表 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|
| 9:00<br>~10:00 | 朝の連絡<br>会話・ゲーム | | | チャレンジ木曜日<br>学校への登校にチャレンジしよう<br>（適応指導教室は通常どおり開室する場合も閉室する場合もある） | 朝の連絡<br>会話・ゲーム |
| 10:00<br>~10:50 | 自主学習Ⅰ | | | | 自主学習Ⅰ |
| 11:00<br>~11:50 | 自主学習Ⅱ | | | | 自主学習Ⅱ |
| 12:00<br>~13:00 | 昼食<br>昼休み | | | | 昼食<br>昼休み |
| 13:00<br>~13:30 | 読書タイム | | | | 読書タイム |
| 13:40<br>~14:50 | 自主学習Ⅲ又は<br>軽運動・スポーツ<br>創作・体験活動 | | | | 自主学習Ⅲ又は<br>軽運動・スポーツ<br>創作・体験活動 |
| 14:50<br>~15:00 | 一日の振り返り | | | | 一日の振り返り<br>清掃活動 |

○時間割に教科名を明記する（尼崎市）

| 時間 | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:30~ | 朝の会 | | | | | |
| 9:35~ | はつらつタイム | | | | | スポーツ |
| 10:30~ | 学習1 | 社会 | 英語 | 国語 | 数学 | はつらつタイム |
| 11:20~ | 学習2 | 国語 | 数学 | 理科 | 英語 | |
| 13:00~ | 学習3 | 数学 | 理科 | 英語 | 国語 | |
| 13:55~ | 学習4 | スポーツタイム | | 社会 | スポーツタイム | |

# 多様な不登校支援の現状

| | |
|---|---|
| 教育支援センター（適応指導教室） | 主に不登校状況にある児童生徒が、仲間と共に、学習や体験活動に取り組み、人とかかわることへの不安や悩みを和らげることを目指している |
| フリースクール（民間・他機関） | 不登校の子供に対し、学習活動、教育相談、体験活動などの活動を行う民間の施設。多様な設置者により特徴が様々である |
| 夜間中学（公立中学校） | 元は就労等による義務教育未修了者のために開設された。外国籍の者、入学希望既卒者、不登校生徒など、多様な生徒を受入れている |
| 学びの多様化学校（不登校特例校） | 不登校児童生徒の実態に配慮した特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性のある者に向けた学校。中学・高校の段階がある |
| 定時制・通信制高校（公・私立,サポート校） | 定時制:勤労青少年のため設置（1948年）され,4年以上かけ卒業する。それぞれ高等学校課程がある。通信制:サポート校を置く学校も多い |

# 令和６年度現在：特例校の設置状況（学びの多様化学校）

平成16年：2校
平成17年：3校
平成18年：5校
平成19年：7校
平成20年：8校
平成24年：9校
平成26年：10校
平成29年：11校
平成30年：12校

令和1年：13校
令和2年：14校
令和3年：17校
令和4年：21校
令和5年：24校
令和6年：35校

# 児童生徒支援のバランスをとる

- 専門職の活用（見方の理解・対応方針）
- 援助職目線のアンケートのスクリーニング
- 保護者支援，居場所作り，不安の解消

- 自己成長に向けたガイダンス授業の共有
- 全校実施のアンケートから自己理解へ
- 中１ギャップ・高1クライシス等の予防

気になる子どもの把握
⇒多職種での課題の見極め
⇒個に応じた教育支援計画

全ての子どもの強み・興味の理解
⇒成長を促進させる当事者の個別的・包括的計画立案の多職種の援助

## 困難な課題への対応

- ➢全体へのスクリーニング（専門職の協力も得る）
- ➢所属学年等での検討
- ➢児童生徒支援の担当者会議での確認
- ➢個別支援に関する計画立案と関係者の合意

## 更なる成長の促進

- ➢授業・学活・LHRでの活動
- ➢各領域の適応状況検討
- ➢個の成長のモニタリング
- ➢教育計画の作成・更新

# 全ての子どもに届く心理教育

構成的グループエンカウンター
ピア・サポート
ストレスマネジメント
包括的プログラム 例
　「　　」・「　　」
　「日本版　　」
ソーシャルスキルトレーニング
　アンガーマネジメント
　アサーショントレーニング

「ソーシャル＆エモーショナルラーニング（社会性と感情の学習）」≒に含まれる要素のポイント

- 自己理解
- セルフ・マネジメント
- 他者や社会の理解
- 対人関係
- 責任ある意思決定

# 子どもの学校適応から社会適応へ

- （自己権利擁護）の力量を高める
- （自助･他助資源）に関する情報を集める
- （支援体系）を自らの周りに構築する

子どもの適応・成長を実現するための「プロモーター」

**保護者**

子どもの適応・成長を実現するための「プロモーター」

**本人**

学校関係者や外部資源の後支え

# 引用・参考文献


文部科学省　2022　生徒指導提要[改訂版]

文部科学省　2024　令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要(chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/content/20241031-mxt_jidou02-100002753_2_2.pdf)

西山久子　2012　学校における教育相談の定着を目指して　ナカニシヤ出版


ご参加ありがとうございました。


ご質問があれば:
hisakon@fukuoka-edu.ac.jp